

第32回全国健康福祉祭和歌山大会 ねんりんピック紀の国わかやま2019
ねんりんピック体験談

題名：第32回全国健康福祉祭「ねんりんピック」に初参加して

岩手県選手団水泳交流大会選手 工藤 郁子

6月初旬、練習後にねんりんピック参加の誘いがあり、最初とまどいながらも人数がたりないのでということで受けることにしたのでした。

教員を定年退職後に本格的泳ぎだしたので、まだ実力が伴っていないのではと思いつつ、新たな経験をすることで更に自己啓発ができるのではと思ったからでした。

現役の頃はマラソンを走っていて大会にも参加していたのですが、腰痛が出て健康維持のため水泳にシフトし練習に励んでいました。

まだ本格的に練習しだして6年たらずと日が浅く練習の成果が記録に出るのが楽しい日々でした。しかし今年度に入って記録が伸びずにいたので自分をみつめなおすきっかけになればと思ったからです。

いよいよ大会。11月9日から12日まで紀の国和歌山へ。前日の8日の朝、8時30分盛岡駅集合。県選手団約130名が勢揃いしました。和歌山まで新幹線で6時間。バスで2時間30分。5泊6日間の行程です。遅くに南紀の田辺の海が見えるホテルに到着。

そこで結団式が行われ27種目153名の種目ごとの紹介がありました。

翌日の開会式。総勢一万人の選手団。そのうちでも岩手県の選手団は東北・北海道では最も多い参加人数だったそうです。開会セレモニーでは3000人のマ스ゲーム。地元出身のゲストの歌手の坂本冬美さんも出演。暖かいおもてなしの数々。実に感動的な開会式でした。そのあと、各種目ごとに大会会場へ。水泳選手団は和歌山市内の会場に行き、2時間近く泳ぎこみました。

3日目の11月10日、6時朝食。7時過ぎに競技会会場へ。気温20度と温暖な気候。

会場は3年前の岩手国体の前年の和歌山国体に合わせて建築された木造の木の香りがしながらもモダンで最新式の器具もあり素晴らしい建物でした。

いよいよ競技開始。午前中は個人種目。50mフリーです。いつもの会場と違ったせいかアップが不十分で、思うような記録が出せませんでした。午後の混合メドレーでは初の平泳ぎでの出場。緊張しました。自分なりに精一杯、次の泳者につなぐことを考え泳ぎ切りました。結果は、26位無事泳ぎ切ることができほっとしました。会場内では83歳の方の見事な泳ぎと記録にどよめきと歓声があがっていました。

4日目の11月11日。大会最後になりました。

最初は25mフリー。これも実力が発揮できずあっという間に終わってしまいました。

最後に午後の混合フリーリレー。今度こそという思いで必死に泳ぎようやく自己新に近い記録で相手につなげました。

本県の水泳ではリーダーの工藤栄三が平泳ぎで25mの部で見事1位に輝き、仲間内で喜び合ったものです。

自分自身では個人種目よりリレーで無事、相手につなぐことができ責任を果たした大会になりました。

今回のねんりんピックの参加者の平均年齢は69.5歳。最高年齢者は95歳だったそうです。その中で近年は元国体選手、元オリンピック候補者などが出場しており、ハイレベルな大会になっているそうです。そんな中で一緒に泳ぐことができ、貴重な経験をした大会でした。年齢にかかわらず、参加した皆さんが、日頃たゆまぬ努力を積み重ねていることをひしひしと感じた大会でした。このような機会を与えてくださった大会関係者の皆様に改めてお礼を申し上げます。

サミュエル・ウルマンの「青春とは人生のある時期ではなく心の持ち方をいう」という詩に励まされ、今後の人生、`いつも青春`の気持ちを忘れずこれからも精進していきたいと思います。